



書評・新刊紹介

中庭正人 著

観察ガイドブック 茨城の海藻

茨城には神話の時代から海藻の記述がある。^{ひたちのくにふどき}常陸国風土記(713年)に、^{やまとたけるすめらみこと}倭武天皇が霞ヶ浦を訪れ、^{しのだ}信太郡の村で浜に海苔を乾してあるのを見てそこを「乗浜」と名づけたり、^{のりはま}行方郡で海松や「塩を焼く藻」が生えているのを眺めたことが語られている。古代の霞ヶ浦には海藻が分布していたのである。

著者は、茨城大学で卒論のテーマに海藻を選んで以来47年間にわたり、茨城県下の海藻相をくまなく調査し、その変遷を観察し続けてこられた。昨年の本誌55巻3号に掲載の「茨城県沿岸域の海藻相」(中庭2007)では、茨城県産海藻を147種とし、岩礁のない県南部に1985年から建設された人工海岸(ヘッドランド)が海藻植生を変化させたことにも言及された。千原光雄先生からも「茨城の海藻を知る第一人者」(本書帯より)と認められた著者が、その長年の調査・研究を、野外で利用しやすいフィールドガイドの形で集大成されたのが本書である。

本書は、「種の解説」と「観察地案内」の2部からなる構成で、前者は垂直分布に従って潮上帯のヒメアオノリから潮下帯のコザネモまで、後者は北端の五浦から南端神栖のヘッドランドまで、生態写真、標本写真、顕微鏡写真をふんだんに使って紹介されて



暁印書館出版、
B6判、並製、総
頁128頁、2008
年10月、定価
1,260円(税込
み)、ISBN 978
-4-87015-165-9

いる。一般の人が手に取りやすくなる工夫らしく、ところどころにおしゃれなイラストが挿入され、従来の図鑑にはみられない親近感のあるガイドブックに仕上がっている。

昨年古希を迎えられた著者は、本書とほぼ同時に自伝「茨城の海を訊ねて47年」(294頁)を刊行されており、こちらのほうも紹介したいところであるが、非売品とのことでここでは取り上げない。ご興味のある方は、直接著者へ訊ねられたし：〒311-0103 茨城県那珂市横堀 669-3 中庭正人(☎ 029-298-7272)。(北山)

ご出版の予定をお持ちの会員へ 2008-2009年に出版された御著書の情報(①書名、②著者名、③出版社、④サイズ、⑤頁数、⑥出版年、⑦定価(税込)、⑧ISBN)をお寄せ下さい：

〒305-0005 つくば市天久保4-1-1 国立科学博物館植物研究部 北山太樹
「藻類書評」係 Fax: 029-853-8401, E-mail: kitayama@kahaku.go.jp



藻の見遊山

企画展示 「標本の世界 —国立科学博物館—」

2009年1月19日(月)～3月末日頃

文部科学省は、平成20年1月の省庁移転後、桜田通りに面した旧文部省庁舎3階の旧大臣室を含むスペースを、教育施策やスポーツ振興などをテーマにした5つの展示室からなる「情報ひろば」に整備しました。その一角に文部科学省関連の研究機関が話題を提供する企画展示コーナーがあり、今回国立科学博物館が標本の世界について紹介することになりました。鉱物、化石、貝類、魚類、鳥類の標本とともに海藻の押し葉標本(クロミル、フクロツナギ、ヒメユカリ、ホソバノトサカモドキ、タマミル、ヒジキ、ワカメ)を展示しています(写真)。作製方法も解説され、映像展示では昆虫、蛇、軟体動物と一緒に珪藻や海藻の採集風景をみることができますので、どうぞご覧下さい。無料です。(北山)

【文部科学省 情報ひろば】

所在地：東京都千代田区霞が関3-2-2 旧文部省庁舎 3F展示室、1Fラウンジ
連絡先：大臣官房総務課広報室 Tel 03-5253-4111(内2170) E-mail hiropa@mext.go.jp
交通：地下鉄銀座線虎ノ門駅11番出口(直結)または地下鉄千代田線霞ヶ関駅A13番徒歩5分
時間：無料10:00～18:00(入館は17:30まで) 休館日：土・日・祝日 入館料：無料
URL：http://www.mext.go.jp/joho-hiroba/index.htm

